

平成18年 事故防止対策協議会総会 開催

11月8日（水）、三春ダム管理所事故防止対策協議会の平成18年度総会が開催されました。

この協議会は、施工に伴う事故を未然に防止するとともに、労働者の安全衛生、環境向上のため自主的活動を促進し、円滑な進捗を図ることを目的として毎年開催されています。



はじめに、山下管理所長から開会のあいさつがあり、次に、事務局より平成17年度活動報告と、平成18年度の活動方針案の提案があり、それぞれ承認されました。

続いて、三春警察署の小倉地域交通課長より、交通事故防止に関する講話を頂き、最後に半谷管理係長より、東北地方整備局管内の工事事故発生状況等についての説明がありました。



事故や災害は、日頃の心構えが大切です。今年度も無事故で、1年を過せるよう、職員のみなさん、請負業者の方々のご協力をお願いいたします。



三春秋まつり 2006 に出展しました

11月4日（土）、5日（日）三春交流館「まほら」周辺において三春秋まつり2006が賑やかに開催され、天候にも恵まれて多くの方が来場されました。

展示コーナー（企業・行政・観光）・販売コーナー・ステージコーナーなどの6つのコーナーの他、三春ウォークやスタンプラリーも行われました。三春ダム管理所も展示コーナーに出展し、三春ダムの概要やはたらき、水槽の模型を使った浅層循環施設の説明やバックテスト、蛇沢前ダムで採取した動物プランクトンを顕微鏡で覗いて見



ました。

子供たちは、顕微鏡やバックテストに興味を示し「これは何？」「どうして色が変わるの？」となぜ？なに？が続出！「水の中には小さな生き物がたくさんいるんだね。」「水を汚さないようにしなくちゃね。」と実験を通して少しずつ水環境に関心を持ったようです。また、ご年配の方は湛水前のさくら湖のパネルを見て昔を思い出して三春ダム完成までのお話や、「四季折々のさくら湖を見に足を運んでいます。」と貴重なお話を伺うことができ、私たちも勉強になった二日間でした。

さくら湖自然環境 フォーラム2006開催

11月15日(水)、三春交流館 まほらホールにおいて「さくら湖自然環境フォーラム2006」が開催されました。この「さくら湖自然環境フォーラム」は、平成12年から、さくら湖の自然環境の変化や保全の方向性を示す目的で毎年開催しております。

第7回目を迎えた平成18年度は「土地利用と水環境」をテーマに、大滝根川流域の小中学生や専門分野のみなさんによる研究報告や基調講演・パネルディスカッションが行われました。

開会のあいさつ

さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 会長
三春町長 鈴木 義孝 氏



研究報告 1

『「進め！MK調査隊」の活動から』
田村市立 牧野小学校5・6年生のみなさん

発表で使う衣装
や台本の台詞な
ども自分たちで
考えました。



これからも美しい自然環境を守ることが『ふるさと』
『歴史』を守ることに繋がると思いました。
自然環境を守る工夫をしていきたいと思えます。

研究報告 2

『ダムができてからの気象の変化
風、霧はどうなったのか?』
応用生態工学研究所 所員 熊澤 一正 氏



貯水池の出現により霧の発生頻度が高くなることは、霜を防止する傾向になるのではないかと考えられます。

研究報告 3

『貯水池内の外来魚の状況と捕獲後の有効活用』
応用生態工学研究所 所長 浅見 和弘 氏
(財)ダム水源地整備環境センター主任研究員
大杉 幸功 氏
国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所 所長
山下 洋太郎 氏



湛水前の平成7年から継続して三春ダム貯水池全体におけるオオクチバスやブルーギルの全捕獲個数体数に占める割合を調査してきました。平成14年以降も、この2種の占める割合は多く、三春ダムの優占種となっています。また、捕獲した外来魚を有効活用するため、肥料化の検討を行いました。

研究報告 4

『沢石地区の自然』

三春町立沢石中学校2年生のみなさん



沢石地区の自然環境について『水』『大気』『森林』の3つの視点から、どの程度自然が守られているのを調査し、「私たちは自然に守られて生きていること、私達も自然を守りながら生きなければならない。」と感じました。

紹介 1

『水源地ビジョン 流域の活性化にむけて』

国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所
技官 高橋 良久 氏



「地域の自然を知り、守り育てる。資源を活かす。地域をつなげ、発信する。」を基本目標に年度内に「さくら湖水源地域ビジョン」の策定を予定しています。

紹介 2

『三春町 堆肥センターの活動』

三春町役場 産業建設課 主査 渡辺 惇 氏

地域の有機性資源（牛糞等）の有効活用を行い、堆肥等の投入による土づくりを行っています。



紹介 3

『お米と田んぼの価値を考える』

－田んぼの生き物調査から－

JAみどりの理事・全国環境保全型農業推進会議委員
佐々木 陽悦 氏



食の安全や環境の「モノサシ」として生き物の調査は活用できると考えます。

基調講演

『土地利用と水環境』

秋田県立大学教授 松本 聡 氏



日本の農業は時代の変化、農業政策の転換の流れの中で、翻弄され続けてきた。かつての棚田で代表される物質循環型社会に戻れというのか？

パネルディスカッション

『大滝根川流域のこれからの土地利用と水環境』

コーディネーター：秋田県立大学教授 松本 聡 氏
パネラー：

三春町のエコファーマー 石井 忠憲 氏
宮城県大崎市のエコファーマー 佐々木 陽悦 氏
夏井川流域住民による川づくり連絡会代表世話人

福島工業高等専門学校教授 橋本 孝一 氏
GCP 滝根代表（森づくり）七海 博 氏



パネラーの活動紹介の後、阿武隈川流域の地質や土地利用の現状、農業就労人口や作付け面積、また水質の変遷などをふまえ「これからの大滝根川の土地利用と水環境」をテーマに、それぞれの専門分野の取り組みを通して活発な意見交換が行われました。

閉会のあいさつ

さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 副会長
国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所
所長 山下 洋太郎 氏





ミーちゃん&んじくんの

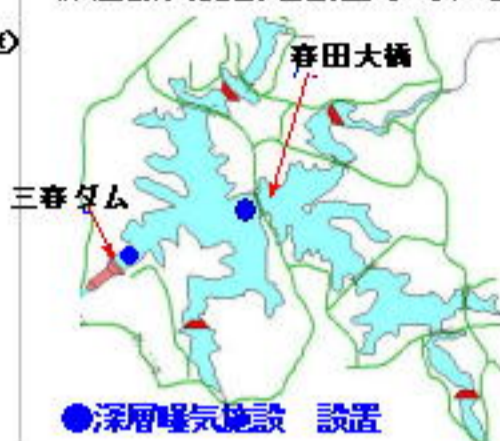
なぜ?なに?さくら湖



Q. 三春ダムでは、植物プランクトン（アオコ）が増えないように何か対策をしているの？（8月号からのコトバ）

A. 三春ダムでは、前貯水池・流入水パイパス管・浅層循環・深層曝気の4つの施設を設置して水質保全対策を行っています。今回は、深層曝気について説明します。死滅分解し湖底に沈んだ植物プランクトンが酸素を不足することによって、窒素やリンが水に溶け出してしまい、再び藻類（植物プランク

トン）の栄養となってしまったり、底泥に含まれる金属（鉄やマンガン等）が同じように酸素が無くなることで水に溶け出し、上水道に対して黒水や赤水の原因となります。深層曝気は、これらが浮上しないように底層に酸素を送り込んで良好な水質を確保するために、春田大橋付近と三春ダム管理所展望台前に2基の深層曝気施設を設置しています。



このような深層曝気施設がさくら湖の湖底に2基設置されています。



自然観察ステーションからのお知らせ

< たこ作り教室 >

1月6日（土） 午前9時～12時
申込期限 1月4日（水） 参加料 300円

< 星を見る会 >

1月12日（金）・20日（土）・26日（金）
午後7時～9時 ※雨天等中止
参加料 大人／200円、小人／100円
月や冬の星雲・星団の観察や簡易プラネタリウムによる学習会が行われます。

・・・お問合せは・・・



さくら湖自然観察ステーション 0247-61-1546
三春交流館まほら 0247-62-3837

俳句ポスト作品紹介

三春ダム資料館では、1階展示ギャラリーに俳句ポストを設置しています。俳句ポストへのご応募、ありがとうございます。ご応募頂いた中から、ご紹介いたします。

冬きたり 三春の里に 秋深かし 水残を映す 名残を映す 遠く秋の 紅葉かな 紅葉かな さくら湖と メロディかな



資料館展示ギャラリーに応募のあった作品を月毎に展示しております。資料館にお越しの際、是非ご覧ください。

11月の見学者

11月10日（金） 三春町立中郷小学校（14名）
11月10日（金） 郡山市立芳賀小学校教養委員会
家庭教育学級（29名）



中郷小学校4年生のみなさん

三春ダム資料館からのお知らせ

年末年始 休館のお知らせ

12月29日～1月3日
休館とさせていただきます。
1月4日（木）からは、通常どおり9時開館となります。



編集後記



今年ももう12月。クリスマスも近く今年のプレゼントは何にしようかと悩んでいます。職場でクリスマスのお話をしていたら、昔話で盛り上がり、それぞれの故郷を思い出していたようでした。今年はどんなクリスマスだったのでしょうか？ （石井）

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を
お待ちしております。

〒963-7722
福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内403-4
TEL0247-62-3145 FAX0247-62-3170
ホームページアドレス
<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/>